

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

February 2024

## 十勝は暖冬

暖か〜い。朝はマイナス10℃程度、日中はプラス4℃に。1月末ではありえません。先日降った大雪(20cm)も解けて溶けてビチャビチャ。降雪の後の強風で、積もった雪も飛ばされて、畑の土までも舞い上がり、白い雪が真っ黒に様変わり。おひさまの熱を受けより解けています。このまま春へと淡い期待も、予報ではしっかり寒さが戻ってきそうです。強風が4日続いたのはきつかった。吹き溜まりに突っ込んだ車の救出では、目の前もホワイトアウト。氷の粒がシャワーのように顔に被りました。

森の動物も活発になってきました。朝行くとエゾシカやキタキツネの足跡が点々とついています。10月にストックしたサイレージも穴をあけられ食われています。猟友会に頼んだり、害獣用のネットをかぶせたけどどこまで持つか、暫し戦いが続きます。牛たちは、サイレージをバクバク食べているから、美味しいのかな。

日高の山並みが、蒼くくっきりと白い原野に映ります。また伸びてきた日の入りは、空に残った雲が赤から紫と映り、吹き流しのようにはがえます。春の息吹を感じる十勝です。



## 活動のお知らせ

3/5(火)~3/8(金) **FOODEX2024** 東京ビッグサイト  
10:00-17:00 北海道十勝館にHOBA北海道オーガニックビーフ振興協議会出店

## NEWSばかり読み

- 石川・能登半島で地震・津波1/1: おいおい年明けから
- 農水省 11月農作物価指数昨対1.1%下げ 畜産動物は低迷1/6: 根本上がっている
- 農水省 主食用コメ需給安定で各県前年実績水準660万t適正量反映1/8: 安定生産?
- 北海道 発電所木質バイオ燃焼灰から肥料販売へ1/9: 投入原料確認
- 国交省 移住・2地域移住促進促進の方針作成1/10: 過疎地対策真剣に
- 総務省 11月食品支出1.2%減幅縮小 物価高鈍化1/10: 安定するか
- 農水省 11月農産物輸出額3%増 過去最高の水準 牛肉・緑茶けん引1/10: 食肉海外輸出注力
- 財務省 データv納豆輸出が5年で2倍に伸長 中華圏で販路広がる1/12: 伸びるね
- ゲノム編集作物v世界で実用化進むv日本トマトで先行1/12: 実用化されているんだ
- 子実コーン多収技術が向上 ドローン農業散布貢献1/16: 実用化進む
- 農水省 オーガニックヴィレッジ全国集会開催 町村実例発表1/16: 定着化になるか
- 政府v農業基本法の理念に価格形成・合理的な費用検討1/17: 算定レベル
- 農水省 トラクターのシートベルト義務化に1/18:
- 観光庁 訪日客が年間2506万人過去最多 韓国3倍中国4割1/18: 期待感
- 農水省 指定野菜にブロッコリー50年ぶりに追加1/19: 野菜の伸び期待
- 十勝種雄牛「花国安福」17歳で逝く1/20:
- 11月マルキン肉専用種に発動 以前コスト高続く1/22: 響くね
- A2ミルク 認証運用へ1/23: おなかごろごろ対応
- 国内 中古トラクターが海外輸出増で国内流通減1/23:
- 「高温の解法」栽培技術進む1/24: 先んじて進めよう
- 財務省 23年度統計 貿易赤字が9.2腸炎に源輸出は加工差宇内1/25:
- ブラジリアマゾン川流域で記録的な干ばつ 世界的な気温上昇1/26:
- Jミルク 24年度生乳生産量を0.3増へ需給見通し1/27: 回復するか
- 組織間連携法人の設立増える。農業人手不足に活路1/29: 横断的付き合い
- 中酪 生乳受託量2.5%17か月連続減 生産抑制、離農影響1/29: 構造的実態
- 23年農産品輸出4%増 牛肉、緑茶が過去最高1/31: 貢献度高し
- 総務省v人口移動 東京都転入超過80%増 一極集中再加速1/31: 過疎化進む

## 東京直近NEWS(1/29 Shi-REPORT)

## ホルス

市況相場は停滞気味も年始玉の手当てで年明けはそれなり維持。販売状況は低迷も不需要期相まってスライス切落しは引合上場。赤身モモ、一部ロース、スネ、切落しの引合。カタロースはシーズンオフ感漂い産地も余裕ありか。全般販売は停滞も、一部量販でホルス引合等あり給食原料等でも一定需要維持している。販売苦戦は変わらずも頭数少なく産地は強気維持し値ごろ感は弱い。

## 経産牛

経産牛相場は高値安定時。頭数減少傾向予測も各市場出荷頭数で大幅な増減はない。年度内は例年並みの出荷が概ねの予測。逆に年度末に主観的に出荷増の予測もあり。販売は一定需要維持もバラ系や一部の赤身パーツで余裕ありか。挽材は一定量の引合維持しているが、一部産地では在庫余剰は無く数量調整の声も。挽材の在庫確保の動きも今後予測され、次年度に向けた荷動きに注視。

1.日畜会報94巻4. (2023.11)
(総説)畜産分野におけるライフサイクルアセスメント(LCA)
研究の展開と将来展望 (瀬戸口 暁ほか、京大)

持続可能な畜産の展開には経済的成立、環境負荷低減や社会的受入が必要である。家畜の環境負荷要因の評価にLCAが有効手法とされています。LCAは製品の原材料の入手、製造から使用、廃棄に至る全てのプロセスでの環境負荷を評価し、有効な負荷軽減策を検討するもので、国内外の畜産分野では自給飼料やエコフィード、バイオガス発電、肥育牛の肥育期間の短縮、有機畜産の展開などの研究が環境負荷の観点から有効性を評価されています。多角的なLCAの手法で畜産のシステムとしての精度の高い有効性を分析するツールと思われました。

2. 畜産技術823号(2023.12)
(1)研究レポート:放牧牛の糞と尿に対するメタンと一酸化二窒素の排出係数(森沼憲、農・食産技総研 省力肉牛生産G)

放牧牛が草地に排泄するメタン(CH4)や一酸化二窒素(N2O)は温室効果ガス(GHG)であり大気中濃度は1,800-330ppbで寿命は12-110年とされています。放牧牛の排糞(1.2kg)排尿(200ml)を草地内に設置したのチャンパー内に集め、内部の空気中CH4,N2Oを測定しました。これらの排出係数(EF:糞CH4EF%=発生量/糞有機物量,N2OEF%=発生量/糞・尿中全N量)は放牧と堆肥化(堆積、切り返し、発酵)で比較すると乳・肉牛のCH4,N2OいずれのEFとも堆肥化より放牧の方が小さく、放牧は家畜によるGHG排出削減に有効と思われました。

(2)海外情報1.:気候変動・生物多様性・地球規模の持続性と家畜生産(上本吉伸他、東北大)

EAAP,WAAP,インターブル共催畜産に関する国際会議について(2)
この報告は畜産技術誌822号の続きで温室効果ガス(GHG)排出抑制の世界的研究動向の紹介です。牛からのメタン排出量の測定にはカナ

ダやノルウェーなどは牛を入れたチャンパー内の呼気ガスを測定するグリーンフィード標準法で、オランダ・日本などは搾乳ロボットなどの飼槽内のガスを吸引するスニファー法を用いています。前者はメタン排出量の精度はやや高く測定するが導入や維持コストが高く、後者のメタン排出量には予測値が必要ですが多頭数の測定が可能で、これらの測定で報告された遺伝率は前者0.24-0.36、後者0.11-0.45です。

3. 畜産技術824号(2024.01)
(1)牛伝染性リンパ腫(安藤清彦、農・食産技総研 動衛研 ウイルスG)

牛伝染性リンパ腫は届出伝染病の一つで、発症牛は全廃棄となり、2021年の届出は4,375件と多発しています。その原因はウイルス感染(BLV)が主体と観られていますがBLVの有効なワクチンや治療薬はまだ実用化されていません。主な発症例では食欲不振、体重減少、痩せ、眼球突出などです。染拡大防止には吸血昆虫対策も必要です。

(2)牛体をシマ模様にしたシマ「ウシ」による吸血昆虫対策(児嶋朋貴、農・食産技総研 動物行動管理G)

シマウマのシマ模様の機能について吸血昆虫忌避効果を黒毛和種繁殖種牛6頭に2年間かけて白色と黒色の水性ラッカーで人工シマ模様を施し吸血昆虫の付着数とウシの忌避回避回数への効果を検討しました。白シマ牛の吸血昆虫付着数と忌避行動が有意に減少しBHVの感染リスクの低減に有効と思われました。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2023

転載・再利用は固くお断りします

基調講演「脱炭素社会における堆肥利用を軸とした耕畜連携・資源循環型農業」5回シリーズ①
北海道農業研究センター 芽室研究拠点 池田 成志氏

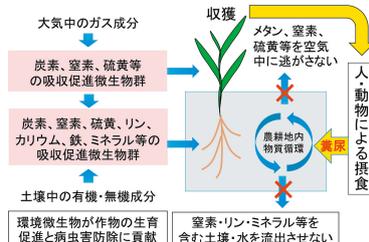


図 有用微生物を利用した持続的農業の概念図

家畜ふん尿は未処理のまま農地に施用されることも多かった(十勝でも農地への生糞の直接施用が奨励されていた空気感があった)



生糞の表層施用で何が起きているのか?
二〇〇八年十月号「十勝版・生糞とごみ」解説
未熟な形の動物性有機物を農地に直接施用することは極力避けるべき
なぞなら、
環境汚染、害虫の多発、土壌の劣化、作物への有害物質・微生物の移行
等の恐れがあるから

農地・動物性有機物に関する環境リスク要因

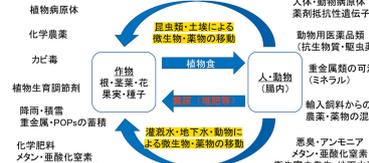


図1 植物共生と植内共生の関係図

- 1. 微生物・化学物質による土壌・農作物の汚染
2. 窒素やリン、温暖化ガス、化学物質等による環境汚染
=>全て人間自身の健康・存在を脅かす要因となる。

Table 1: Overview of feed additives. Columns include Purpose, Type, and Feed Additive Type. It lists various additives like antibiotics, vitamins, and enzymes used in livestock feed.

Table 2: Overview of feed additives. Columns include Feed Additive Name, Feed Additive Type, and Feed Additive Type. It provides detailed information on specific additives and their categories.

※ 飼料添加剤の種類は、飼料添加剤の製造メーカーによって異なる場合があります。

※ 飼料添加剤の種類は、飼料添加剤の製造メーカーによって異なる場合があります。

畜種別にみた家畜排せつ物発生量(農林水産省・畜産局畜産振興課の資料)

Table showing manure production by species: 乳用牛 (2,186), 肉用牛 (2,358), 豚 (2,115), 採卵鶏 (791), フロイター (563), 合計 (8,013). Units are in 10,000 tons.

注:令和7年 畜産統計などから推計。豚及び採卵鶏は農セン7ヶ年実績年のため、平成31年2月1日時点の観察値により推計。

1980年代、家畜ふん尿の排せつ量は7,000万トンを超え、これを肥料に換算すると、当時使われていた化学肥料の5割に及び指定されているが(小菅ら、1985年)、現在もほぼ同様な状況にあると考えられる。牛・豚の糞尿が大部分を占める。

農つかの人体病原菌類は農作物土壌で長期生存・増殖できる

Table listing various human pathogens found in agricultural soil, such as E. coli, Salmonella, and Shigella, along with their sources and persistence in soil.

最も多く使用されている動物用抗菌剤の1つがテトラサイクリン系抗菌剤

Table showing the usage of tetracycline antibiotics in animal feed, including the number of animals and the amount of feed used.

(表1、内山、2018年)
全畜種に対して生育阻害を示し、多くの土壌細菌や植物共生細菌も影響を受ける。
糞と水産で多用されている(2015年の実績で70と17%)
テトラサイクリン耐性は他の種類の薬剤にも耐性になりやすい可能性がある。